

○三重県亀山市の取組

(1) 第1期計画の取組による成果

亀山市では、平成20年度から令和2年度(13年間)を計画期間とする第1期歴史まちづくり計画により、以下のような成果をあげています。

- ・ 亀山宿・亀山城を中心とした地域の歴史的風致を形成する特に重要な要素のひとつである「旧亀山城多門櫓」きゅうかめやまじょう たもんやぐらを歴史的風致形成建造物として指定し、石垣及び建造物の復原修理を実施しました。あわせて周辺整備を実施した結果、城跡周辺の歴史的建造物と一体となった良好な景観を飛躍的に向上させることができました。
- ・ 東海道沿いの空き家を「関の山車」せきやま会館として整備し、文化財である山車を保管するとともに、見送り幕等の関連品や資料の保管・学習・展示、地元保存会や地域住民の寄り合いなどの山車の保存・伝承活動に寄与しました。



旧亀山城多門櫓



「関の山車」会館
修理前の管理展示棟(主屋)



「関の山車」会館整備後

(2) 第2期計画の概要

亀山市では、重要伝統的建造物群保存地区「亀山市関宿^{かめやましせきじゆく}伝統的建造物群保存地区」を有する東海道沿道地域において「関の山車」の祭りや、伊勢信仰に関わる「お木曳き^{きび}」、かつて亀山藩の武芸流儀であった心形刀流^{しんぎょうとうりゅう}武芸形^{ぶげいがた}が続けられ、宿場町及び城下町双方の伝統と町並みを感じられる歴史的風致が形成されています。

第2期計画では、第1期計画の東海道に加え、新たに大和街道等の街道沿いの営みにみる歴史的風致を位置付け、歴史的施設や地域活動拠点となる施設の整備をはじめ、歴史的施設を繋ぐ東海道の美装化等に取り組みます。



【亀山市】関宿祇園夏祭り

○長野県松本市の取組

(1) 第1期計画の取組による成果

松本市では、平成23年度から令和2年度(10年間)を計画期間とする第1期歴史まちづくり計画により、以下のような成果をあげています。

- ・ 国宝「松本城天守」やその城下町を中心に道路の美装化や建物のファサード修景、井戸の整備等を複合的に実施し、歴史的まちなみ景観の向上を図ったことにより、人通りの増加や景観に関する市民満足度の向上につながりました。
- ・ 市指定重要有形民俗文化財「松本城下町の舞台」全18台の修理を行い、祭礼やイベントなどにおいて豪華絢爛な舞台を展示し、多くの市民が文化財を知る機会を提供しました。
- ・ 「松本市近代遺産」制度を創設し、城下町を中心とした重点区域内の築50年以上の歴史的価値を有する建造物を124件登録し、歴史的建造物の保全・活用を図りました。



井戸・ポケットパークの整備



道路の美装化



駅前広場での舞台展示

(2) 第2期計画の概要

松本市では、国宝「松本城天守」「旧開智学校校舎」及びその周辺の旧城下町において、豊富な井戸水を利用した営みや商都松本を代表する行事である天神祭りやあめ市等により、固有の風情が感じられるほか、周辺の地域における伝統行事などの伝統文化と併せて7つの歴史的風致を形成しています。

第2期計画では、第1期計画に引き続き歴史的建造物の耐震改修等による保全を図り、良好なまちなみ景観を形成するとともに、松本城三の丸地域及び旧開智学校周辺において、基幹博物館や周辺道路の整備等に取り組めます。



あめ市でにぎわう通り

歴史まちづくり計画に基づく取組により、全国各地の都市では、地域経済の活性化や、住民の誇り・地域への愛着の醸成が図られています。

<岐阜県高山市の事例>

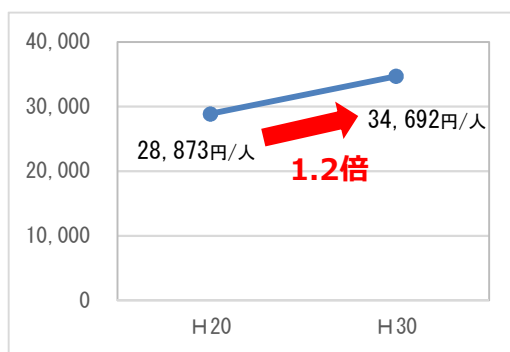
👉 ホームページや案内板の多言語化等の外国人観光客の受入環境整備や、SNS の活用、海外旅行博への出典等により、地域固有の歴史文化の魅力を積極的に発信した結果、外国人観光客の大幅な増加が見られました。また、宿泊者一人あたりの消費額も増加傾向にあります。

○外国人宿泊者数



出典：高山市歴史的風致維持向上計画
令和元年度進行管理・評価シート

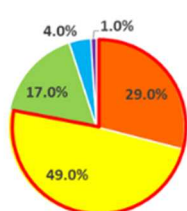
○宿泊者一人あたり消費額



出典：高山市平成 30 年観光統計

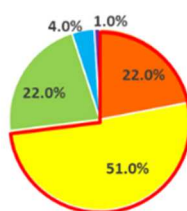
👉 地域の歴史文化を伝える「飛騨高山まちの博物館」の整備や、地域の伝統文化の保存・継承等を推進することで、住民満足度の向上に繋がっています。

○文化財や伝承芸能が保存・継承され、郷土の歴史文化に誇りを持っている



満足度
78%

○町並み景観や農山村景観など地域の美しい景観が保たれている



満足度
73%

- 満足している
- やや満足している
- あまり感じない
- 感じていない
- 無回答

出典：高山市歴史的風致維持向上計画
最終評価シート (H20~H29)

<滋賀県彦根市の事例>

👉 歴史的建造物として昭和 20 年以前の建物を「町屋」として位置付け、産官学民が連携した組織「小江戸ひこね町屋活用コンソーシアム」を立ち上げ、これまでに 25 件の空き町屋が取引され、歴史的建造物の利活用の促進を図っています。



空き町屋の活用事例「ゲストハウス無我」(撮影：笹倉洋平)

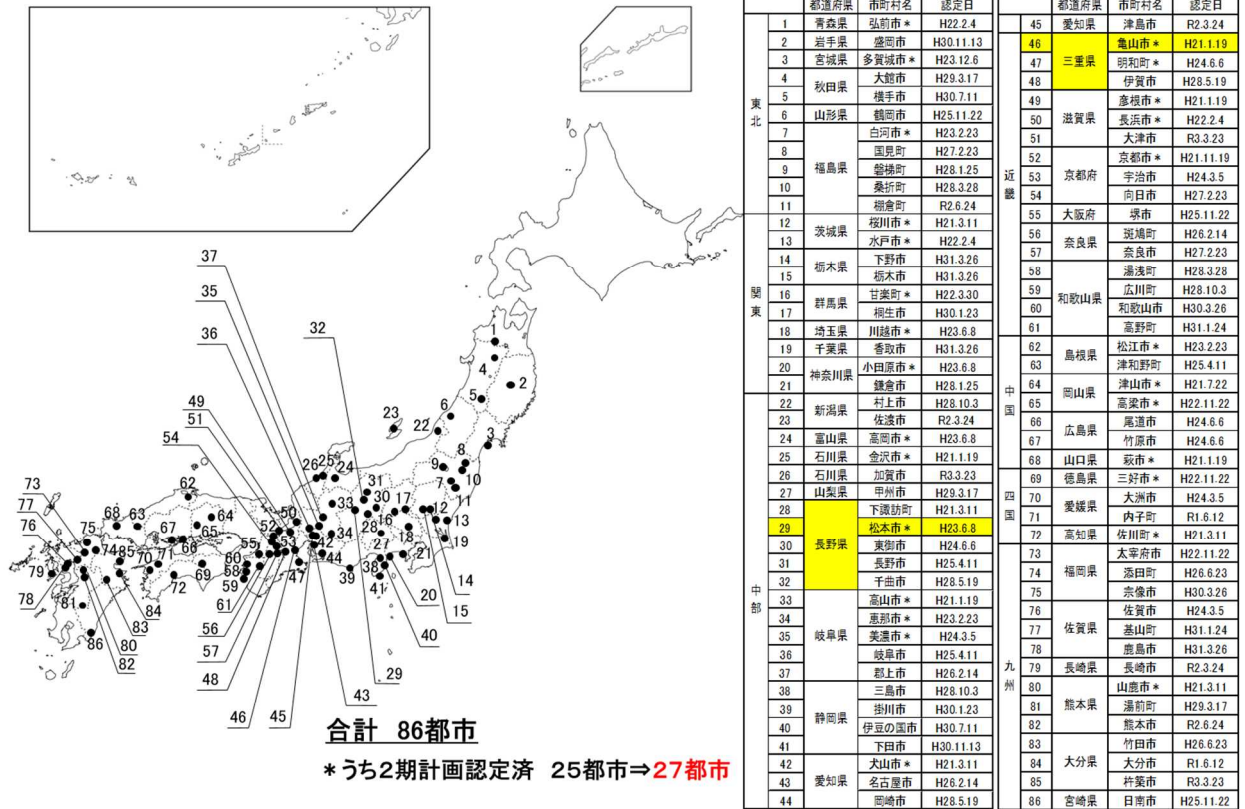


図 歴史まちづくり計画の認定状況

各都市の歴史まちづくり計画については、以下の国土交通省ホームページにて紹介しています。

http://www.mlit.go.jp/toshi/rekimachi/toshi_history_tk_000010.html